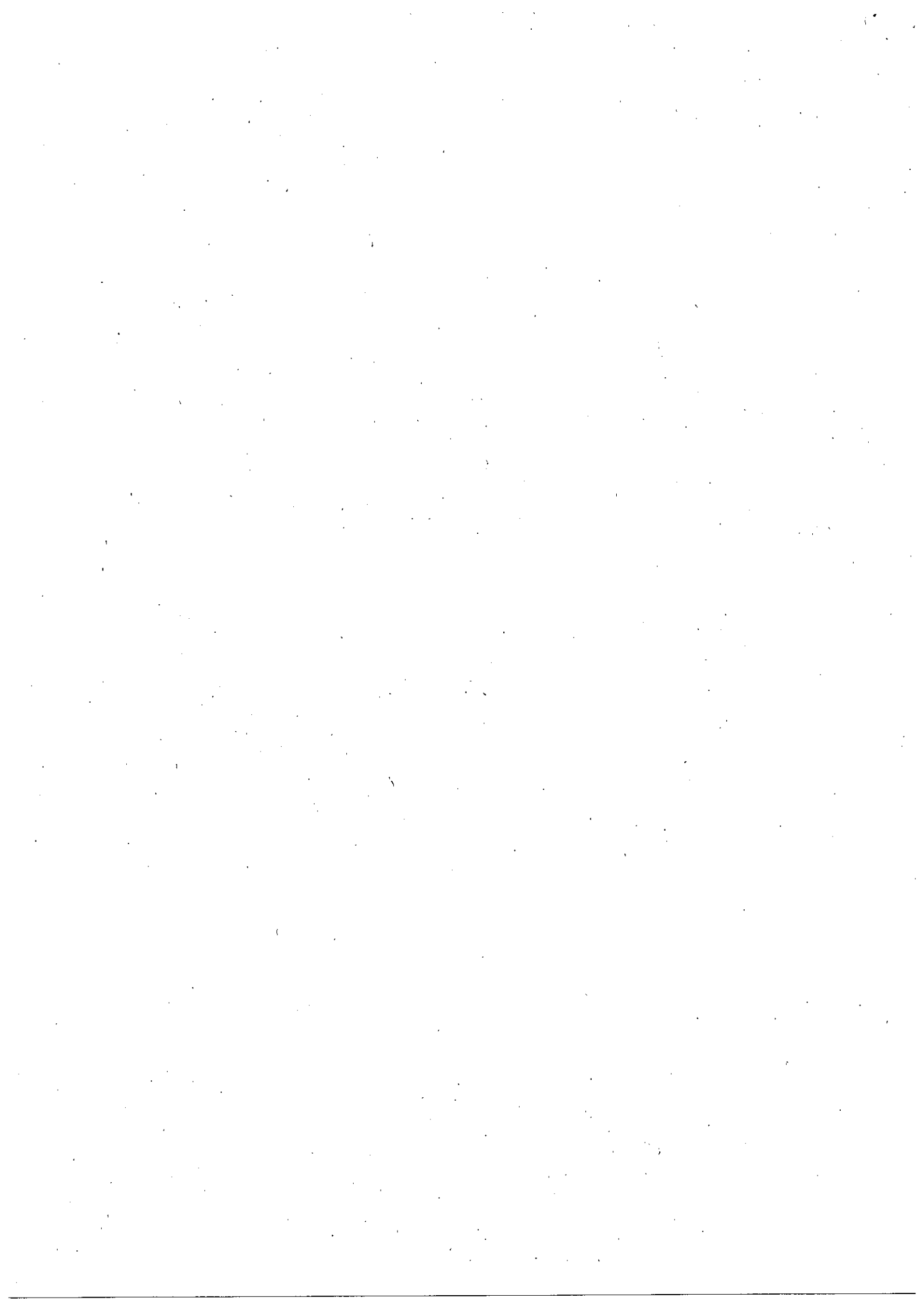


所管事項調査に関する資料

目次	ページ
1 「第6回核兵器廃絶－地球市民集会ナガサキ」及び賢人会議 について	1～4
2 旧城山国民学校校舎外壁のモルタル剥落について	5～6
3 訴訟の現況について	7～9

原爆被爆対策部

平成30年9月



1 「第6回核兵器廃絶－地球市民集会ナガサキ」及び賢人会議について

(1) 第6回核兵器廃絶－地球市民集会ナガサキについて

ア 概要

核兵器のない平和な21世紀を実現するための国際集会である「核兵器廃絶－地球市民集会ナガサキ」は全世界の市民・NGOと長崎県民・市民が連帯し、官民一体となった取り組みとして、平成12年からこれまで5回開催されている。

昨年7月の国連における核兵器禁止条約の採択において、各国政府への働きかけなどの貢献が評価され、ノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)に代表されるように、国連や国際社会の場において、国内外のNGOなどの市民社会の影響力が増している。

このようななか、「第6回核兵器廃絶－地球市民集会ナガサキ」を開催し、核兵器禁止条約の実効性を高めるための道筋やNGOの役割などを話し合い、会議の集大成として長崎アピールを採択し、被爆地長崎から核兵器廃絶の願いを世界に発信する。

イ 事業内容

- (ア) 期 間 平成30年11月16日(金)～18日(日)
- (イ) 会 場 長崎原爆資料館、長崎市平和会館ほか
- (ウ) 主 催 核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会 委員長 朝長万左男
(構成：市民・長崎県・長崎市・公益財団法人長崎平和推進協会)
- (エ) 総事業費 15,000千円(長崎市8,000千円、長崎県6,000千円、
参加登録費など1,000千円)
- (オ) テーマ 核兵器のない世界をこの手に
禁止条約とICANノーベル平和賞を力に

(カ) プログラム

日	時間	内 容	会 場
16日 (金)	13:00	開会集会・基調講演	平和会館 ホール
	15:30	【分科会1】朝鮮半島の平和と非核化の進展 北東アジアの核なき未来	平和会館 ホール
17日 (土)	9:30	【分科会2】被爆の継承～ヒバクシャの想いに学び・伝える (11:40～：被爆継承サロン：平和学習室)	平和会館 ホール
	14:30	【分科会3】次世代とつくる核なき世界	平和会館 ホール
	14:30	【特別企画】へいわってどんなこと？ 絵本作家 浜田桂子さんとともに	原爆資料館 ホール

日	時間	内 容	会 場
18日 (日)	9:30	【分科会4】核兵器なき世界の実現をめざす NPT体制と核兵器禁止条約の役割	平和会館 ホール
	13:30	閉会集会・長崎アピール (終了後ピースウォーク)	平和会館 ホール

このほか、期間を通じてブース出展及び自主企画を実施

(キ) 主な出演者 (予定)

(基調講演)

黒澤 満：大阪女学院大学教授、長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)顧問

(海外ゲスト)

ピーター・ヘイズ (アメリカ)：ノーチラス研究所所長

イ・テホ (韓国)：参与連帯事務局長

ジャルガルサイハン・エンクサイハン (モンゴル) 元モンゴル国連大使

キャサリン・サリバン (アメリカ)：国連軍縮部軍縮教育アドバイザー、長崎平和特派員

スーザン・サザード (アメリカ)：作家、長崎平和特派員

土岐 雅子 (アメリカ)：モントレー国際大学院不拡散研究所

ダニエル・ホグスタ (スイス)：ICANコーディネーター

レベッカ・ジョンソン (イギリス)：アクロニム軍縮外交研究所所長

ジャクリーン・カバッソー (アメリカ)：西部諸州法律財団事務局長

ウ 参加見込

参加登録者^(※) 200人、延べ参加者3,500人

【参考】過去の参加者実績

回	開催年	参加登録者 ^(※) 数	延べ参加者	分科会数
第1回	平成12年	493人	5,625人	10
第2回	平成15年	411人	6,765人	8
第3回	平成18年	274人	3,782人	6
第4回	平成22年	235人	3,833人	3
第5回	平成25年	188人	3,280人	4

(※) 参加登録者…集会内の会議において発言することができる「参加登録」を申し込んだ人数 (参加登録がなくても傍聴はできる。)

参加登録費…1人あたり2,000円、大学生以下は1,000円

(第1回～第5回：3,000円)

(2) 核軍縮の実質的な進展のための賢人会議について

ア 概要

外務省が設置している「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」は、北朝鮮情勢をはじめとする安全保障環境の悪化、核軍縮の進め方をめぐる核兵器国及び非核兵器国間、さらには非核兵器国間での意見対立が顕在化する中、様々なアプローチを有する国々の信頼関係を再構築し、核軍縮の実質的な進展に資する提言を得ることを目的とし、第1回会議が昨年11月に広島で、第2回会議が今年3月に東京で開催された。

第2回の会議終了後に出された提言書は、今年4月にジュネーブで開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議第2回準備委員会の際に、河野外務大臣から一般討論演説やサイドイベントにおいて発表されている。

第2回の会合の中で、今回の提言でカバーしきれなかった核兵器のない世界に向けた中・長期的な課題についても議論を行い、次年度も議論を継続していくことが合意されており、今年8月9日に挙行した「被爆73周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」において、安倍内閣総理大臣から、賢人会議を長崎で開催すると発表がされたもの。

イ 事業内容

- (ア) 期 間 平成30年11月14日（水）～15日（木）
- (イ) 主 催 外務省
- (ウ) 会 場 未定
- (エ) 委 員 4ページに記載のとおり

ウ 被爆の実相プログラムの実施

賢人会議委員に長崎における被爆の実相を理解してもらうため、次のプログラムを実施するよう調整を図る。

- (ア) 献花（平和祈念像前）
- (イ) 原爆遺跡、原爆資料館の視察
- (ウ) 被爆体験講話、家族交流証言の聴講
- (エ) NGO等関連団体との意見交換

エ 核兵器廃絶-地球市民集会ナガサキとの連携

核兵器廃絶-地球市民集会ナガサキと賢人会議は開催日程が連続しており、ふたつの会議が連携することにより、それぞれの会議の参加者同士の交流や議論の活性化が期待されるため、賢人会議委員が地球市民集会へ参加できるよう調整を図ることとする。

「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」委員

分類	国	氏名・肩書
核兵器国	アメリカ	リントン・ブルックス (Linton Brooks) 米国エネルギー省国家核安全保障庁 (NNSA) 元長官
	アメリカ	ジョージ・パーコビッチ (George Perkovich) カーネギー国際平和財団副会長
	ロシア	アントン・フロプコフ (Anton Khiopkov) 露エネルギー・安全保障研究センター (GENESS) 長
	中国	沈丁立 (シェン・デンリー) (Shen Dingli) 復旦大学国際問題研究院副委員長 (教授)
	フランス	ブルーノ・テルトレ (Bruno Tertrais) 仏戦略研究所副所長
中道国	オーストラリア	トレバー・フィンドレイ (Trevor Findlay) メルボルン大学社会政治学院シニア・リサーチ・フェロー
	ドイツ	アンゲラ・ケイン (Angela Kane) 元国連軍縮担当上級代表
	カナダ	タリク・ラウフ (Tariq Rauf) 元国際原子力機関 (IAEA) 検証安全保障政策課長
核禁推進国	エジプト	マフムード・カーレム (Mahmood Karem) 元駐日エジプト大使、元国連軍縮諮問委員会委員
	ニュージーランド	ティム・コーリー (Tim Caughley) UNIDIR シニア・フェロー (元 NZ 軍縮担当大使)
		★座長 白石隆 日本貿易振興機構アジア研究所長
		青木節子 慶応義塾大学大学院法務研究科教授
		浅田正彦 京都大学法科大学院教授
		小溝泰義 広島平和文化センター理事長
		朝長万左男 日赤長崎原爆病院名誉院長
		山口昇 国際大学副学長・笹川平和財団参与

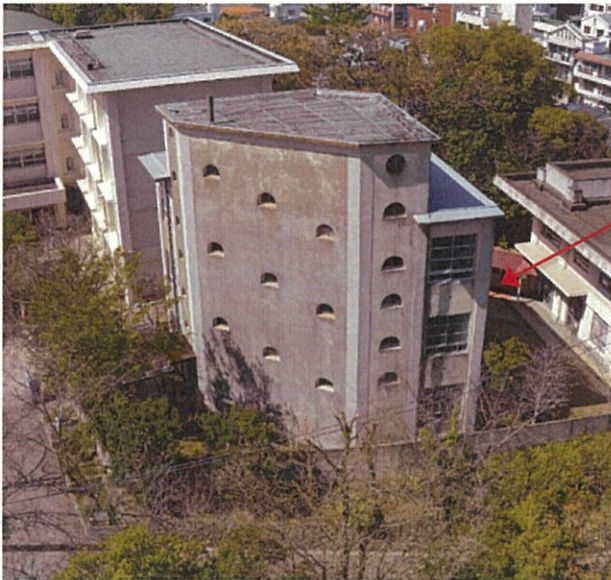
2 旧城山国民学校校舎外壁のモルタル剥落について

(1) 概要

平成30年8月12日(日)、旧城山国民学校校舎の北側壁面2階天井の梁を覆うモルタルが剥落し、落下防止ネットの中に溜まっているとの連絡を受け、翌朝、現地を確認した。

剥落したモルタルについては、被爆当時の内装材が残っている可能性があるため、落下防止ネットから回収し、原爆資料館に保管した。

今後、専門家による分析を行い、保存活用計画の参考にする予定。



南東からみた旧校舎



北西から見た旧校舎

外壁剥落防止ネット



既存進入防止フェンス

モルタル剥落箇所 (幅 300cm・高さ 40cm)



剥落箇所拡大

(2) 経過

- 平成 28 年度 屋上防水や外壁等の劣化対策などを実施（厚生労働省補助）
〔外壁の具体的な対策〕
- ・被爆当時の内装材が残っている可能性のある北側外壁の 2・3 階の梁や柱にモルタル等の剥落に備えた落下防止ネット設置
 - ・被爆当時の内装材が残っていない西側外壁の剥落の恐れのあるモルタル除去、むき出しになった鉄筋の錆の処理
- 平成 28 年 10 月 3 日 旧城山国民学校校舎などで構成する長崎原爆遺跡が国の史跡に指定
- 平成 29～30 年度 保存活用計画策定中
- 平成 30 年 8 月 12 日 モルタル剥落発見の連絡
- 平成 30 年 8 月 13 日 現場確認、市文化財課へ連絡、県・国へ報告
- 平成 30 年 8 月 21 日 剥落したモルタルを落下防止ネットから回収し、原爆資料館に保管

(3) 今後の対応

今年度中に保存活用計画を策定予定であり、その後、整備基本計画を策定し、基本設計、実施設計を経て本格補修を行う。

なお、本格補修までの間、城山小学校の子どもたちや一般の見学者の安全確保のため、今後の暴風雨などに備え、史跡長崎原爆遺跡保存整備委員会のご意見を伺ったうえで、北側、西側の壁面全体を飛散防止ネットで覆うなどの新たな対策を検討する。